令和6年度 事業報告及び決算について

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

I 事業活動の総括と会員の状況

昨年度も各部会が中心となり人と人の繋がりを再構築できるように、活発に活動することができた。オンラインの活用も進んで、様々な形での顔の見える関係づくりをすることができた。また報酬改定に対する意見や介護人材不足解消に対する意見を世田谷区に提出するなど、世田谷区介護サービスネットワークに求められる役割も変わってきている。介護保険が始まってから25年が経過し、介護現場を取り巻く状況は大きく変化してきている中で、運営委員を中心にどのような活動が会員もメリットになるか議論を続けてきた。これまで通り事業所間の連携は必要不可欠であり、発足当時から研修会や交流会などを中心にネットワークを広げてきた。今では介護サービスの質の向上は、本ネットワークの事務局でもある世田谷区福祉人材育成・研修センターが多種多様な研修の企画運営をしてくれている。会員数の減少も課題となり、できるだけ多くの事業所に参加してもらうためにも、新たな運営方法を検討してきた。

会員数は年度末において正会員・準会員が187事業所、個人会員が6名であった。

令和6年度の事業活動の円滑な運営を図る為、各部会及び事務局から推薦され運営委員により運営委員会が開催され、当会規約に則って事案を審議した。

最後に、事務局である世田谷区福祉人材育成・研修センターから組織運営に関して多大なるお力添えをいただいたことを記して感謝したい。

代表	徳永 宣行 (研修グループ)
副代表	磯崎 寿之 (世田谷地域部会)
同	菊本 浩三 (通所介護連絡会)
同	山口 慶恵 (訪問介護連絡会)

II 設置委員会および部会の年度当初計画

1 委員会（小委員会を含む）

名称	目的	主な活動内容（当初計画）
運営委員会	介護サービスネットワークの円滑な運営	定期運営委員会を月1回開催する。また必要に応じて臨時運営委員会を開催する。会議はオンライン会議を中心にハイブリットなどの集合型も再開できるようにする。
地域部会調整小委員会	地域部会の円滑の運営	世田谷、北沢、玉川、砧、烏山の各地域部会の運営のサポートを行う。地域部会ごとの活動の報告や意見交換の機会をもうけ、さらに地域ごとに多職種間で顔の見える関係を築き、円滑なサービスを提供するための足掛かりになるような『場』をつくる。部会と講演会の共同企画・運営を行う。
広報渉外小委員会	会員間の情報交換と対外的情報発信 介護サービスネットワークの宣伝活動、その他の関係団体との交流等	ホームページの情報更新、企画・運営を行う。区内での宣伝活動、他自治体で活動する介護事業者団体、その他関係団体との交流等を行う。会員章を作成する。毎年11月に発行予定の介護サービス事業者ガイドブック（ハートページ）の監修を行う。
災害対策小委員会	災害への対応策と連携方法の検討	世田谷区と締結している、災害時協力協定の見直し改定を検討する。世田谷区との災害時連携、地域との連携等ワークショップ形式で行う

2 課題別部会

名称	目的	主な活動内容（当初計画）
研修グループ	連続講座による研修を企画開催。介護の楽しさや醍醐味を周りの人に伝えることのできる人材の育成を目指す。	世田谷区福祉人材育成・研修センターをはじめとして、様々な研修がオンラインなどの多様な方法で受講することができようになった。これまでのように研修を主催するのではなく、今まで行ってきた研修を体系的にまとめて、情報提供できるようにする。今後の研修グループのあり方について検討する。
せたがや通所連絡会	管理者・生活相談員・介護職員・看護職員など事業所で日々介護に係わる者により、介護保険法の解釈や事業運営に関することや介護の疑問点や他事業所での試み等、普段役に立つ情報	今年度はインターネット交流会を定期的に企画し、緩やかな参加、退席自由形式で行う事で自由な参加、自由な討論の場を設け、活動の新たな展開を図りたい。

	を共有し、介護職員の質の向上を目的として活動している。	
せたがや 訪問介護連絡会	会員相互の情報共有や意見、要望を区に提言する仕組み等を通じて、サービスの標準化や共通する課題解決に協働して取り組む環境を実現する。会員へのメリットの提供と、若手幹事の募集・育成を促進する施策を実施する。また訪問介護員が参加できるイベントを通じて、会員の交流を図る。	会員相互の情報共有や意見、要望を区に提言する仕組み等を通じて、サービスの標準化や共通する課題解決に協働して取り組む環境を実現する。特に ICT プラットフォームの活用を通じて、会員へのメリットの提供と、若手幹事の募集・育成を促進する施策を実施する。また訪問介護員が参加できるイベントを通じて、会員の交流を図る。 具体的には、以下の施策を中心に本事業計画に即した施策を柔軟に実施する。 (ア) 若手幹事の募集・育成に寄与する幹事会の運営 (イ) 多職種との連携に係る取組
せたがや 福祉用具連絡会	福祉用具専門相談員の資質向上、福祉用具の普及啓発活動、新しい福祉用具に関する情報の共有、医療職・介護職等との連携強化。	せたがや福祉用具連絡会は福祉用具専門相談員の資質向上、福祉用具の普及啓発活動、新しい福祉用具に関する情報の共有、医療職・介護職等との連携強化に取り組む。 (ア) 福祉用具の使用法習熟のための研修を開催する。 (イ) 介護関係者等を対象とした福祉用具の出張研修を開催する。 (ウ) おしごと相談会での福祉用具紹介や小中学校での福祉用具体験に参加予定。

3 地域部会

名称	目的	主な活動内容（当初計画）
世田谷地域部会	世田谷地域での会員の連携と親睦	多職種が連携し地域連携以上の事業者協働機会の創出を目指す。 「介護事業者管理者向け連続講座パート2」（毎月開催）を通して職場の課題解決のための方法を学ぶ。 地域防災活動等に参加し、地域住民・行政を含めた災害対策を発展させる。 世田谷地域部会の会員相互の情報・意見交換と意見集約の機会をつくる。 全区的な「ハラスメント研修」開催に向けた準備を、世田谷地域部会が研修センターと協力しながら取り組む。
北沢地域部会	北沢地域での会員の連携と親睦	地域事業所間の顔の見える関係を強化する。「地域包括ケアシステム」の視点で地域事業所と地域住民との関係づくりを構

		築することを目的として、雑居祭りへの参加やスマホ教室、福祉講座、満足院除夜、新年会など集いの場を年2~3回設ける。
玉川地域部会	玉川地域での会員の連携と親睦	地域で活動する事業所や地域住民の方との関係づくりを目的とし、地域の方が参加できるイベントや納涼会や忘年会を企画する。 あんしんすこやかセンターや地域のクリニックと連携して、災害や感染症をテーマとした研修会を企画する。
砧地域部会	砧地域での会員の連携と親睦	地域住民との交流を行う。 砧地域ご近所フォーラムへの協力(ご近所カフェ等での介護相談や福祉用具展示等) 地域住民の主催する防災訓練やイベント等へ参加。
烏山地域部会	烏山地域での会員の連携と親睦	コロナ以降、部会の活動について、どういう形で行うのが望ましいか、定まらずに来た。部会員より活動再開を望む声もあり、ひとまず集まってみることに、気楽な交流会から始めてみたい。烏山地域の特徴として、烏山病院、松沢病院といった大きな精神科病院があるといったことがあり、障害者支援への理解を深めることは、今までと同様に続けていきたい。部会員が仕事で担当しているご利用者さんの中には、家にこもりがちの方も多く、地域の方が楽しむために集まれる場所を地域支援部会で作れたら嬉しいという意見も出てきた。今後、各々仕事に差し支えない範囲でどういったことができるのか検討しつつ、まずは多職種で気楽な意見交換のできる場の設定ができればと考えている。

Ⅲ 活動報告

1 総会

- 開催日時 令和6年6月7日(金) 18:30～
- 会場 世田谷区福祉人材育成・研修センター 研修室C及びオンライン
- 基調講演 「デジタル活用とアナログ脱却による円滑業務を行政と一緒に！」
講師：世田谷区副区長 松村克彦氏
- 表決事項 議案第1号 令和5年度事業報告及び決算について
議案第2号 令和6年度事業計画及び予算について
議案第3号 令和6年度運営委員及び監事について
- 表決結果 上記全ての議案について賛成多数で可決された

2 運営委員会

委員名簿（順不同）

役員（委員）	名前	事業所名	選出
運営委員長※1	徳永 宣行	ナイスケア世田谷介護センター	研修グループ
副運営委員長※2	山口 慶恵	山口ケアサービス	訪問介護連絡会
副運営委員長※2	磯崎 寿之	ほほえみの木々	世田谷地域部会
副運営委員長※2	菊本 浩三	タガヤセ大蔵デイ	通所連絡会
会計担当者	丸茂 典子	セントケアりまいん世田谷	福祉用具連絡会
会計担当者	後藤 香里	そよかぜ訪問看護ステーション上北沢	烏山地域部会
	塚越 典子	タウンライフケア桜上水	訪問介護連絡会
	丸山 幸	みのりの庭 世田谷	通所連絡会
	桑谷 和司	トーカイ	福祉用具連絡会
	上保 恭子	ここにこみやさか	世田谷地域部会
	並木 章	リハデイ花水木	北沢地域部会
	水口 博幸	梅ヶ丘駅前介護保険サービス	北沢地域部会
	佐伯 正和	ヒューマンケア	玉川地域部会
	南部 恵美子	玉川ケアサービス	玉川地域部会
	石川 容堂	バイタル訪問鍼灸マッサージ	烏山地域部会
	冨樫 恵	世田谷区社会福祉事業団	

※1 本会規約第7条第1項及び第11条第6項の規定により当会代表として選任

※2 本会規約第7条第1項及び第11条第6項の規定により当会副代表として選任

活動日誌

開催回	年月日・会場	主な内容
第1回	令和6年4月16日 (リモート開催)	世田谷区第9期介護保険事業計画の制定について、人材対策推進協議会へ協力について、6月開催に総会について
第2回	令和6年5月21日 (リモート開催)	令和6年度活動報告について、総会について 訪問介護連絡会の勉強会について、管理者講座について
第3回	令和6年6月18日 (リモート開催)	総会の開催報告について、令和6年度の活動について、 HPの運営について、人材対策推進協議会について
第4回	令和6年7月16日 (リモート開催)	会員会費の徴収について、区議会委員会への意見陳情 部会活動の報告について、BCP机上訓練について
第5回	令和6年8月27日 (リモート開催)	会費納入について、せたがや福社區民学会について、 HPの活用について、令和6年度の活動について
第6回	令和6年9月17日 (リモート開催)	BCP机上訓練について、災害時協力協定見直しについて、 せたがや福社區民学会について
第7回	令和6年10月15日 (リモート開催)	ホームページ監修について、年会費について、各部会活動 について、情報発信・HPの活用について
第8回	令和6年11月19日 (リモート開催)	災害対策小委員会の活動について、せたがや福社區民学 会の報告について、来年度の活動について
第9回	令和6年12月17日 (リモート開催)	人材対策推進協議会、医療介護連携推進協議会の報告に ついて、来年度の活動について、災害対策について
第10回	令和7年1月21日 (リモート開催)	来年度の会費徴収について、介護ネットのあり、部会活動 の負担軽減について、他団体との連携活動について
第11回	令和7年2月18日 (リモート開催)	ケアプランデータ連携について、経営改善支援事業につ いて、来年度以降の活動のあり方について、部会活動報告
第12回	令和7年3月18日 (リモート開催)	事業所支援策について、介護ネットのあり方について、来 年度以降の活動について、アンケートについて

3 小委員会

① 地域部会調整小委員会

活動報告

各地域部会で活動はあったが、小委員会としての活動はなし。

② 広報渉外小委員会

活動報告

令和6年12月に会員章を発行した。

③ 災害対策小委員会

活動報告

世田谷地域部会が中心となっていた、BCP 計画策定やシュミレーションを小委員会に引継ぎ、世田谷と締結している「災害時協力協定」の見直しに向けて、新たなメンバーを募り話し合いを始める。

4 課題別部会

① 研修グループ

活動報告

世田谷区福祉人材育成・研修センターが開催している研修に、会員事業所が積極的に参加するように促し、研修グループ自体のあり方について協議した。

② せたがや通所連絡会

活動報告

通所連絡会の運営メンバーで、今後の活動について協議をした。

③ せたがや訪問介護連絡会

活動報告

幹事会を毎月第2金曜日に開催した。また下記の学習会の開催、イベント参加した。

- ・令和6年4月12日「特定事業所加算セミナー」開催
講師：小濱道博氏
- ・令和6年5月9日 「特定事業所加算みんなで取ろう！」開催
- ・令和6年10月11日「どうなる介護保険」開催
- ・令和6年11月6日 せたがや福社區民学会に活動事例発表
- ・令和7年2月14日 「幸福の国デンマークに学ぶ高齢者福祉」開催

④ せたがや福祉用具連絡会

活動報告

幹事会はラインにて随時打合せした。

あんしんすこやかセンターや世田谷区福祉人材育成・研修センターなどからの依頼で、講習会やイベント等で福祉用具に展示や体験など参加協力をした。

5 地域部会

① 世田谷地域部会

活動報告

- ・昨年度からの継続事業として「介護事業者管理者向け連続講座」を毎月第3木曜に計12回開催した。
- ・令和6年9月13日「BCP策害対策机上訓練会」を開催した。

② 北沢地域部会

活動報告

幹事会を毎月開催した。

- ・令和6年5月24日スマホ教室開催。
- ・令和6年10月13日(日)に世田谷羽根木公園で開催された雑居祭りに参加した。福祉用具展示や介護相談や健康相談、アロマハンドなども好評だった。
- ・令和6年11月6日せたがや福祉区民学会において活動事例発表をした。
- ・令和6年11月16日スマホ教室開催。
- ・令和6年12月31日「梅丘で除夜の鐘」開催@満足院

③ 玉川地域部会

活動報告

なし

④ 砧地域部会

活動報告

なし。

⑤ 烏山地域部会

活動報告

- ・なし。

IV 収支決算書及び財務帳票

事業活動収支計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

単位(円)

科目	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
会費収入	1,430,000	1,067,000	363,000
会員外資料費収入	0	0	0
ヘルパーブック販売収入	0	0	0
受取利息	50	639	-589
収入合計(A)	1,430,050	1,067,639	362,411
II 支出の部			
ヘルパーブック仕入代金	0	0	0
消耗品費	20,000	0	20,000
印刷製本費	230,000	73,337	156,663
通信費	100,000	43,630	56,370
情報宣伝費	70,000	78,000	-8,000
研修費	285,000	78,500	206,500
会議費	45,000	0	45,000
交通費	0	2,342	-2,342
諸会費	15,000	15,000	0
支払報酬料	150,000	66,000	84,000
支払手数料	10,000	11,880	-1,880
租税公課	0	0	0
減価償却費	0	0	0
雑費	0	11,000	-11,000
支出合計(B)	925,000	379,689	545,311
当期収支差額(C) = (A) - (B)	505,050	687,950	-182,900
前期繰越収支差額(D)	5,541,285	5,541,285	0
次期繰越収支差額(E) = (C) + (D)	6,046,335	6,229,235	-182,900

貸借対照表

2025年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度末	前年度末	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金及び預金	6,233,318	5,541,795	691,523
貯蔵品	0	0	0
前払費用	0	0	0
未収入金	0	0	0
流動資産合計	6,233,318	5,541,795	691,523
2 その他固定資産			
器具及び備品	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	6,233,318	5,541,795	691,523
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	0	0	0
前受金	0	0	0
仮受金	0	0	0
預り金	4,083	510	3,573
流動負債合計	4,083	510	3,573
負債合計	4,083	510	3,573
III 正味資産の部			
前期繰越正味資産	5,541,285	5,541,285	0
当期正味資産増加額	687,950		687,950
正味資産合計	6,229,235	5,541,285	687,950
負債及び正味資産合計	6,233,318	5,541,795	691,523

財産目録

2025年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金 (現金)	136,328
現金預金 (当座預金) ゆうちょ銀行 019支店	1,521,945
現金預金 (普通預金) ゆうちょ銀行 018支店	4,575,045
流動資産合計	6,233,318
資産合計	6,233,318
II 負債の部	
1 流動負債	
預り金 (講師源泉所得税) 4/7,4/17納付済み	4,083
流動負債合計	4,083
負債合計	4,083
III 正味資産の部	
差引正味資産	6,229,235
正味資産合計	6,229,235
負債及び正味資産合計	6,233,318